

## 内視鏡用炭酸ガス送気装置 OLYMPUS UCR を導入しました。

おかげ様で当院ではこれまで 8500 件の内視鏡検査を実施させていただきました。  
この中でいかに患者さまに優しく、かつ正確な診断、治療を行っていくかを考えていくこと  
は内視鏡専門医として当然の責務であります。

この一環として当院では内視鏡用炭酸ガス送気装置を導入いたしました。

これは内視鏡検査では腸管を細かく観察するために通常、空気をいれて腸管のしわを  
広げながら細かく粘膜の状態を観察しますが、特に検査後に空気が腸管内に長時間残存し  
検査後の腹部の張りやそれによる痛み、不快感がしばらく続くことがあります。

空気の代わりに炭酸ガスを使用することで大腸内のガスが空気よりも **200 倍近く早く吸  
収**されるといわれており、術後に**腹部の張りの軽減**やポリープ切除時の不快感軽減、合併  
症予防にも役立ちます。







## 大腸内視鏡検査後の腸管ガス像

Air (通常送気)



CO<sub>2</sub> (UCR使用)



通常送気では大腸全域に空気像が見られるのに対し、CO<sub>2</sub>では即時に吸収され少量のガスしか貯留されず腹部症状の軽減が図れます。